

# あびこの文化

発行人 大野 美崎  
我孫子市 高野山  
250-23  
04(7182)  
0861

## 五団体代表が星野市長を訪問

今回5選を果たした星野順一郎市長にお祝いを申し上げるため、2月14日、五団体代表が市長を訪問した。併せて郷土資料センターの実現についてお願いした。

## 星野市長との会談・管見記

村上 智雅子

寒さのうちにも春の日射しが明るく感じられた二月十四日午後四時、我孫子市役所のロビーに郷土資料センター設立推進会の五団体代表七名が集合しました。当会は急遽、私が代表として参加。日頃我孫子に郷土資料館があつて欲しいと願っていた者のひとりとして、緊張のうちにもありがたく参上しました。

一階の市長室奥の会議室に案内されると、間もなく星野順一郎市長が吉岡企画政策課長補佐とともに、こやかに入室されました。

先ず、市史研の岡本和男会長が市長選挙五期当選を果たされた祝意を述べ、これまでの市長と五団体が会談してきた経緯を丁寧に話されました。

星野市長は聞きながら耳を傾け、先ずは市制五十二年となった現在、市の諸施設の建て替えが必要となっている現状について穏やかに語り始めました。郷土資料センターも大事だが、その前に手がけなければならぬ諸施設の問題があることを理解してほしいと示唆されたのでしょうか。まずは市民会館建設や小中学校の校舎建て替えについて話された後、重要なものは老朽化した市庁舎の建て替えであると言及されました。確かに、今どきエレベーターのない本市庁舎は珍しいと日頃から思っております。

「この市庁舎の建て替えについては、厳しい財政状況のため民間の資金導入が必要であり、建物の三階以上に市役所機能を入れる合築構想(例として豊島区役所や木更津市役所)を考えているが、一番難しいのは場所の選定である」と、二つの案を示されました。

(一)眺めの良い手賀沼の畔、例えば野菜特売所の跡地なども良いが、逆に、市民の利便性が悪く、現在の建築基準では建設費が高い。

(二)駅近く(我孫子駅・天王台駅)の市の所有する公園の土地も考えられるが、これもまた市民が親しんだ公園となると問題がある。

「ところで最近、同じ駅近くの施設であるけやきプラザを千葉県が我孫子市に全棟あるいは複数階譲渡する可能性を示してくれたが、ここに市役所機能は入りきれないと説明されました。

けやきプラザ案が出た時、市史研副会長の東氏が「真に手前勝手なことですが、利便性からみてけやきプラザの中の一、二階を郷土資料センターにすることはいかがですか?」と質問されました。すると星野市長はちよつと微笑んで、まだまだという表情で返事はされませんでした。否定もされませんでした。もしけやきプラザの一、二階フロアに郷土資料センターが入ったら、これはベスト。駅近くで利便性も集客力もあり、ホルにコンサートや講演にきた方々も気楽に寄ることができて利用しやすく、この話が実現出来たら、現在、己む無く捨ててしまわれるような古文書などの貴重な資料も生きてくるのではないかと、ほのかな希望を抱いて一時間ほどの会談は終了しました。

有意義なひとときで感謝のうちに星野市長のさらなるご活躍を祈念致しました。

郷土資料センターの実現にはいくつかの困難が立ちただけですが、困難な中にも創意と工夫を持ち、五団体を中心となつて、まずは具体的に動いて、市内の文化団体に働きかけ、さらに市民の理解と支援の輪を広げて、いつの日か郷土資料センターが実現できることを心から祈念しております。



## 今から長期連載スタート

### 「世田谷の頃の原田京平ファミリーを知る」

「白樺文学館では、原田京平を志賀たち白樺派が創造した文化空間「我孫子・白樺派」を継ぐ者として、位置づけ、調査、研究、検証(顕彰)している。「我孫子」に最後まで住んでいた志賀直哉とは、滞在時期が被っており、志賀の全集の日記を見ると、原田と志賀の交流の様子が描かれている。「遺族より、2015(平成27年)に寄託され、2018(平成30年)に寄贈となった資料が原田京平関係資料である。総数は約500点。原田の油彩、水墨などの美術資料をはじめ、妻睦の詩、京平の短歌などの文学資料、書簡、京平が収集した民藝、民俗関係資料などが含まれている。」(『稲村雑談(稲村隆氏)』) 画家であり歌人であった原田京平が約6年間我孫子に住んだ後、昭和三年三月上京したが、我孫子町を離れた以降の歴史については全く不明であった。今回から始まるシリーズは今まで表に出ていなかった原田京平の埋もれていた歴史の新たな発見でもある。

作者(平林清江氏)の言葉

(第1回目、7ページに掲載)

「本シリーズ(世田谷の頃の原田京平ファミリーを知る)は、(その1)のタイトルにもあるように、原田京平ファミリーが、我孫子町から上京後、「東京世田谷区内のどこに住み、どのような暮らしをしたのか」ということへの関心から始まったものである。思い起せば、原田京平の子孫であり、その作品、関連の資料及び著作権継承者の原田喬(たかし)氏と奥様の紀美子(きみこ)氏にお会いしたのが、平成二十二年(2010)年十一月二十日のことであった。翌年三月、原田喬氏の御依頼を受け、原田京平ファミリーの資料の調査を始めた。

『原田京平研究 原田喬氏所蔵資料から見た画家 歌人 原田京平の芸術活動と交友』という調査報告書をまとめ、原田喬氏に贈呈してホツと息をついたのが、平成二十五年(2013)十一月二十日のことであつたと思う。

さらに、令和元(2019)年十月二十一日、東京世田谷区の旧桜丘原田京平宅に在住の加藤充子(みちこ)氏にお会いしたことで、世田谷における原田京平ファミリーの調査は、思いの外はやく進展、(世田谷の頃の原田京平ファミリーを知る)としてまとめることが出来たのである。この度、我孫子の文化を守る会の会報に掲載されるこの報告書が我孫子の皆様に御覧いただけることは、この上ない喜びである。」

# 我孫子の文化を守る会 講演会報告記 「各地の将門伝説・伝承を探る」

牧田 宏恭 (会員)

## 1. はじめに

平将門については、我孫子をはじめ東葛地域、近隣の坂東地域を主体に、ひいては関東、広くは全国各地に「伝説・伝承」を産んで、興味深い話題が存在し、研究者も多いことが知られている。

今回は、我孫子の「市民の子カラまつり2022」の一環で、昨年度(2021)に続き第2回目として実施、前回同様、当会「我孫子の文化を守る会」が主催し、協賛「ふさ歴史サロン」にて、布佐にある我孫子市「近隣センターふさの風」において「各地の将門伝説・伝承を探る」を演題にして開催された。(写真1は会場に大きく飾られた講演会ののり看板)

昨年度の「将門の本拠地はどこだ！」では、「市立市川考古博物館」から「将門記に関連した基調講演」者を招き、続いて「坂東市」「取手市」「柏市」「我孫子市」から「わが町こそ将門の本拠地である！」を力説する報告があり、「熱き論の闘い」に会場が大いに盛り上がった。

好評を得た前回から、今回も「わが地域が如何に平将門と関係があるか」を語っていただき、さらに将門の伝説・伝承を深く知り、将門についての理解をより深くしていただく機会にし、伝説・伝承への夢と想像力を膨らませるひと時とするべく、さらに地域を拡大し、新たに秩父地方の将門に因む報告を秩父市在住の町田広司氏(秩父市郷土史家)にお願いした。取手



市からは前回同様、飯島章氏(取手市埋蔵文化財センター)、地元我孫子市から前回に続き、戸田七支(かずゆき)氏(我孫子の文化を守る会会員)に続編をお願いした。

会場の「近隣センターふさの風」は、地元・相馬郡布佐生まれ、気象関係で有名な岡田武松博士、元中央気象台長(明治7年〜昭和31年)の旧邸跡に建てられた旨を付記する。以下、講演の順に要旨を記す。

## 2. 講演内容

### 2の1 秩父地方における将門伝説の成立と展開

#### 町田広司氏

秩父は千葉氏と同族の秩父氏の地盤であり、町田氏は「秩父平氏と将門伝説」を趣味のライフワークにしていると、ご自身を紹介。(写真2町田広司氏)

『全国的に「将門伝説」の多い茨城・千葉・相馬に次いで多摩・秩父が挙げられる。何故多いのか? 乱・合戦の舞台でない秩父に将門が来たという史実は見られないが、乱の残党が入っても不思議でない。伝説ある地の共通点は将門、良文の末裔が居たなどと称する地盤であり、それが将門伝説の広まりやすい温床になっている』と町田氏は言う。そして秩父の「秩父平氏」にも「将門子孫説」があるという。



(付記)将門が叔父「平国香」と戦いを交えた承平5年(935)「上野国染谷川の合戦」にて、同じく叔父の「平良文」は将門に加勢(別の説あり)し、「妙見菩薩」の加護を得て「国香軍勢」を打ち破った。良文は妙見菩薩を熱く信仰、後年秩父に居を構え、「妙見社」を秩父に創建したとされる。良文はその後、下総国に居を移したが、子孫が秩父に土着し「秩父平氏」を形成したといわれる。

「将門伝説」は秩父に多々あるが、伝説の宝庫は「城峯山」にあるとし、各地から行者が訪れ秩父各地に伝説が伝播している。この地域の伝説分布を3つのブロックに分ける。

### 第1ブロック

城峯山から西谷を遡上する女人伝承↓群馬県野栗へ↓神流川沿いに矢納(野栗神社・秩父に9社)。これは「城峯山をとりまく城峯山ルート」と言われる。

### 第2ブロック

本谷を遡上、浦山↓日野↓大達原↓多摩。奥多摩・山梨丹波山の三峰講が雲取越えすること。これは「三峯山・多摩将門神社、循環ルート」と言われる。

### 第3ブロック

秩父往還の起点となる秩父神社に合祀の秩父妙見(妙見菩薩)は秩父の象徴である。また、秩父神社が秩父観音霊場34か所や三峯山(繋がる秩父の正面玄関)であり、これは「秩父往還基幹ルート」と言える。

(付記)秩父地方では、妙見菩薩が「妙見七つ井戸」を渡り秩父神社のある場所に奉斎された後「秩父七妙見」として交通の要所に7か所に祀られ、秩父神社(秩父妙見宮)の守護神となっている。

### 伝説に現れる主なところ

・城峰神社——城峯山頂近い標高1,000m付近にあり、社殿の正面脇に大きな金文字で「将門」と書かれている大きな額あり。日本武尊と藤原秀郷を祀っている。(写真3)

・将平の居城跡——将門の弟将平。将平明神・大山祇(おおやまづみ)神社——将平が崇敬。城峯山中腹の上日野沢・町平にあり、神像の袖に「九曜紋」あり、馬に乗る「将門像」もある。「九曜紋」は千葉氏が信仰する「妙見北斗七星や北極星を神とする」家紋である。

・棕神社——山麓・吉田にあり「棕神社縁起」に藤原秀郷が将門征伐の時、「猿田彦」に氏神合祀し「井棕五所大明神」とし、祀る。

・野栗神社——神流川流域に点在。定峰には石間で源経基に攻められた将平の落人が祀った



社がある。

・鏡守神社——鬼石にあった。将門の愛妾「桔梗御前」の裏切りに将門が取り上げ投げた「鏡」を祀った。

・矢納堂——矢納(城峯山頂を分ける)。一説に将門の矢を納めた(秩父札所21番に移す)

・円福寺——皆野。「円福旧来記」。石間で源経基に敗れた将平を祀るとある。

・正龍寺——寄居。寺にある?「慶長五年の記」。将門がこの地に館、弟の正頼が秩父・井佐間ヶ嶽に城を持ち、藤原経基に攻められ、将門が下総に敗走とある。

・秩父神社——秩父にあり。前述(第3ブロックの項)に触れた通り。

・浦山——石間の落人

・中津川——秩父の中津川集落の幸島家初代「幸島覚範入道」は将門の家臣で、天慶の乱後、この地に落ち中津川村七戸が猿島を称した。数代後には帰郷した。

・円通寺——大達原に将門が開基。将門自作の形像・将門甲冑像1尺2寸(約425mm)がある。

・大血川——平将門が天慶の乱にて討死した折、太陽寺に隠れていた愛妾の桔梗と従者99人が、この地で自害、その血が流れた川との説から呼ばれている。しかし、この自害説とは別に、桔梗らが太陽寺に逃げ込む際に、源経基らの手により殺害され、その血が流れた川など、このように諸説が存在。九十九明神(九曜紋)に祀られた。また、秩父に桔梗は自生しないという伝説がある。

雲取山——三峰3山の雲取山の七石権現(今の七つ石神社)。将門とその家臣が逃げ回った処で、将門と行動を共にした武者7人が祀られているとの説。

・多摩・青梅・越生地域——秩父に近い地域にも数多く将門に由来するといわれるところが多く散在。武州三田庄の将門宮などがある。

以上、秩父地域の伝説の多さを強調。さらに将門に因む「神田明神」、「大手町首塚」などを挙げ、『将門に思いを馳せる人々により、今も伝説が生まれている。「将門伝説」は生きている』と町田氏は話を結んだ。

## 2の2 取手に残る将門伝説・伝承

### ——桔梗伝説を中心に

飯島章氏(写真4飯島章氏)

内容は「桔梗塚の説明」、「変わりゆく桔梗塚の姿」、「様々な桔梗伝説」、「取手周辺地域に残る桔梗伝説」へと進んだ。

講演に先立ち数多い参考文献

・資料の存在や千葉県立博物館、岩井市さしま郷土館などの各企画展が紹介された。資料(史料)は、「取手市史民族編Ⅱ」、「取手市史石造遺物編」、野口如月著「北相馬郡誌」、赤松宗旦著「利根川図志」(高田与清「相馬日記」の部分引用)、清宮秀堅著「北総詩誌」などがある。

以下内容。

・薄幸の美女「桔梗御前」悲話——平成9年取手市発行資料にあり。常総線稲戸井駅近く、国道294号線沿いの塚、将門の討死を知った愛妾「桔梗御前」が逃げこの地で殺されたこと伝えられ祀られている(取手市米の井)。

・変わりゆく「桔梗塚」——最近(平成16年)の桔梗塚の様相(ある程度整備保存されており、近隣所在で、この土地を所有の「龍禅寺」により管理されている。昭和40年代、60年、62年に撮

影された桔梗塚の様相(取手市史他に掲載)が紹介され、塚に置かれている「地蔵」「五輪塔」の位置や、置かれ方などの変遷が判る。特に、昭和40年代刊行の「史跡紀行 平将門」には、「桔梗が原に残る桔梗塚」と紹介され、周りが深い木立に囲まれ荒廃した塚の様子がある。そのように変遷していく中で、桔梗に纏わる伝説・伝承は、文字にされ、新しい変化が生じている様子。(写真5)

講演に先立ち数多い参考文献

・資料の存在や千葉県立博物館、岩井市さしま郷土館などの各企画展が紹介された。資料(史料)は、「取手市史民族編Ⅱ」、「取手市史石造遺物編」、野口如月著「北相馬郡誌」、赤松宗旦著「利根川図志」(高田与清「相馬日記」の部分引用)、清宮秀堅著「北総詩誌」などがある。

以下内容。

・薄幸の美女「桔梗御前」悲話——平成9年取手市発行資料にあり。常総線稲戸井駅近く、国道294号線沿いの塚、将門の討死を知った愛妾「桔梗御前」が逃げこの地で殺されたこと伝えられ祀られている(取手市米の井)。

・変わりゆく「桔梗塚」——最近(平成16年)の桔梗塚の様相(ある程度整備保存されており、近隣所在で、この土地を所有の「龍禅寺」により管理されている。昭和40年代、60年、62年に撮

影された桔梗塚の様相(取手市史他に掲載)が紹介され、塚に置かれている「地蔵」「五輪塔」の位置や、置かれ方などの変遷が判る。特に、昭和40年代刊行の「史跡紀行 平将門」には、「桔梗が原に残る桔梗塚」と紹介され、周りが深い木立に囲まれ荒廃した塚の様子がある。そのように変遷していく中で、桔梗に纏わる伝説・伝承は、文字にされ、新しい変化が生じている様子。(写真5)



・将門と桔梗御前——取り上げられた史料に見る愛妾の桔梗御前の捉え方は様々(①～⑤)で、天慶2年(939)将門が起す反乱(一族の私領争いに端を発し、朝廷への謀反に変化)に対し、都から「将門征伐」に藤原秀郷が派遣された。

①藤原秀郷が天慶3年(940)将門追討時に、将門の7人の影武者が存在。この内本物の将門を見分けるため、秀郷は桔梗に内通。桔梗からその方法(※1)を案内させ、将門を殺害。桔梗も殺害。桔梗は「桔梗塚」に葬られた。桔梗が原と呼ばれるあたりには「桔梗はあれども花は咲かない」と言われている。

(※1)「将門の見分け方」: i. こめかみ説、ii. 吐く息が見えるか否か、iii. 影が出るか否か、iv. 影武者は土で出来ており、本物は生身。

②将門が大日山に影武者6人を連れ朝日を拝するため向かったが(写真6)、向かいの城山に居た秀郷が、桔梗を騙し、将門らを呼び出させ殺害。桔梗は自身の判断から、城山下の沼に飛び込み入水。その亡骸が米ノ井に流れ着いた。そこに地の人により埋葬、祀られた(桔梗塚)。また、「将門」と7人の影武者(8人分)の墓は取手市の隣、守谷市・高野にある「海禅寺」にある。

③似通ったまたは同様の記述は、野口如月著「北相馬郡誌」、そして赤松宗旦著「利根川図志」に高田与清著「相馬日記」からの引用分として記載されている。

④異なった内容の伝説は梶原・矢代著「将門伝説」にあり、腹黒い秀郷の命により、将門に妾として差し出された桔梗が、秀郷に反し将門の情にほだされ

たために、龍禅寺「三仏堂」(写真

7)に祀られた。

⑤異なった内容の伝説は梶原・矢代著「将門伝説」にあり、腹黒い秀郷の命により、将門に妾として差し出された桔梗が、秀郷に反し将門の情にほだされ

たために、龍禅寺「三仏堂」(写真

7)に祀られた。

⑥異なった内容の伝説は梶原・矢代著「将門伝説」にあり、腹黒い秀郷の命により、将門に妾として差し出された桔梗が、秀郷に反し将門の情にほだされ

たために、龍禅寺「三仏堂」(写真



こに将門の武運祈願に赴く際に殺害されたと記述。さらに全く別の伝説として、将門を嫌った桔梗は自害したとの記述もあるようだ。その他、清宮秀堅著「北総詩誌」に取り上げられたのは、民間の歴史家達が「菓草として花は摘んでしまふ桔梗の根を用いる菓」を「桔梗」と呼び、艶やかな花のイメージに「じつ」で「愛妾」の名をつけたとの記述などあり。将門の名が出ないところに使われている。

・取手周辺地域に残る将門伝説

①佐倉市将門町にある「伝承桔梗塚」(建立は昭和56年)

②佐倉市将門町にある「将門口の宮神社」——将門を菩提として、祀っている。

③佐倉惣五郎(宗吾)——苗字が「木内」で将門の子孫と称している「千葉氏」の血筋と言っており、菩提として「口の宮神社」に祀られており、将門伝説に関わる人物。農民一揆の先頭に立った人物(江戸時代の人物)。

④小宰相供養塔(山根不動堂境内)——将門が寵愛した佐倉領内に居た牧野の娘「小宰相」を竹袋の山城に「愛妾・桔梗御前」として住まわせていた。天慶3年(940)に藤原秀郷に討たれ落城。印西・木下の「山根不動堂」に桔梗の供養塔がある。さらに桔梗愛用の「鏡・懐剣」は大須賀村・東三井寺(廃寺)にある(利根川図志に記述)。現在は、成田「昌福寺」に保管。

以上、「取手」における「桔梗伝説」は市内でも様々に伝わっている。「将門伝説」は、今も「伝説の再生産・新しい伝説が生まれ、伝説は生きていく」と飯田氏は結んだ。

2の3 将門・王城の地を求めて

戸田七支氏

今までの「将門研究」では、「将門の本拠地は現在の茨城県南西部」というのが主流で、新しい史実が現われない限り、これに固まっているように見られ、且つその人物像は「朝廷に背いた横暴な謀反人」が一般認識である。しかし、今多く存在する「将門伝説が何を物語っているのか、荒唐無稽な(つまり根拠もない)伝説に——主従の霊が手賀沼を騎馬にて渡り丘陵に上り

朝日を拝した処に祠を建てた(将門記)が何を暗示しているか?これは、現在排除されているが、しかし、ここに伝説の研究のスタートがある。(写真 戸田七支氏)

・「将門伝説」より本拠地を求める一濃厚な伝説が数多く存在

①日秀(ひびり) 観音堂(写真9)に将門の守り本尊(聖観世音菩薩像)、②首曲げ地蔵の存在(写真10)、③ 愛妾 桔梗御前「伝説の存在」、④「キユウリ」を植えない伝説、⑤「将門の井戸」など。

・「将門記」より将門の王城・居館・棧橋(ききょう)、大井の津の所在を求める

「将門記」に「王城を下総の国の亭南に建つべし。兼て棧橋を以て号して京の山崎と為、相馬の郡大井の津を以京の大津と為せむ——」と書かれている。

①本拠地が現在の我孫子市日秀・中里と考えると「将門亭」は「ヨホミン」(湖北地区公民館)の処、②「王城」は今の「将門神社」の処(写真11)、③「棧橋」は「将門神社」の崖の道の下「船着き場」、④「大井の津」は今の柏市大井・福満寺・大津川河口付近、これらの場所はいずれも近く、本拠地が「我孫子の日秀」とする説が本物だと証明できる。実は、

昨年までは、「王城は「相馬郡衙」のあった場所」と説明していたが、これを改めた。

・「将門神社」の真相——今の将門神社のある処が王城・本丸の跡。



伝説にある「主従の霊が……朝日を拝した処」は極めて重要な場所であり、「亭南に王城を……」は単なる城でなく、「関八州の王城にすべし」の意味である。そして3か所にある井戸・①日秀の井戸、②印西・竹袋の井戸、③大井「福万寺」の井戸があり、「日秀の井戸」には「将門と正室が居住(本城・王城)、竹袋の井戸がある山城に側室(妾・桔梗御前)を、大井の井戸(鏡の井戸)がある山城に側室(妾・車の前御前)を住ませた。竹袋、大井夫々に愛妾の「供養塔」が近隣にあるのは、正に「日秀が将門の本拠地」説を一段と裏付けることになる。

以上、「茨城県南西部が将門の本拠地」であるはずは無い!我孫子・日秀が真の本拠地だ!と戸田氏は結論つけた。

(結び)

講演会は、時間を大幅に延長し盛況裡に締め括られた。「平将門伝説・伝承」論議はさらに「新説の出現?」など、これから益々各地で熱っぽく繰り広げられることになりそうである。今後の展開が益々楽しみである。以上

「将門講演会」参加者アンケートから

芦崎 敬己(会員)

九四名の方々に参加頂いた将門講演会で終了時に実施したアンケートに半数を超える方から回答を頂きました。ご協力ありがとうございました。

当日の司会を担当し、アンケート集計を行った経緯から、また、質問時間が持てなかつたことから、提出されたご意見・ご質問やご感想等を紹介して、講演会を更に深めていきたいと思っております。

ご回答にご協力下さったアンケートは、全部で五七件(表1)、参加者の六〇・六%になります。

感想の種類【ご意見】で大まかに区分しました。必ずしも区分が合わない場合もあります。また、筆者の知る限りで、関連事項のメモなどを参考として「」内に記載しました。更に、原則原文で掲載しましたが、文意を変えないで一部修正した部分があります。

なお、①から③は、講演順に①秩父市、②取手市、③我孫子市の講演を示しています。

## 【意見】

『秩父にも伝説があることが意外でした。桔梗―薬根―伝説。長く伝わることには必ず理由がある。』

『① ちょっと難しすぎて分かりにくかったです。少しゆつくりとポイントを話して頂いた方が、良く理解できると思います。② 大変分かり易かったです。色々の伝説があることが分かって良かったです。③ 面白い提案ですね。これからも裏付けを増やして下さい。』

『過去に、「新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る」に参加していた時に、その会の資料の作図手伝い等をやった関係で、平将門のことをかなり勉強したことがあります。村上春樹さんとの研修も関宿でやったこともありま。』

『(中略)分らないことが多いですね。』

『将門と桔梗伝説。我孫子印西の物語を作って朗読劇になるかな。』

## 【質問】

『① 桔梗の前の出自について(どうでしょう)か② 本妻はいなかったのか③ 本妻が居ればどんな人なのか』

『知識量に差があるので私にはちょっと難しかったです。戸田さんの話が一番良かったです。柏(旧沼南町)にも言い伝えがあり、将門公の本拠は、ここ私には思いません。』

## 【感想】

『平清盛と平将門が同世代(ホラ)であることを知った。』

『平将門は、平安時代中期の人物、平清盛は平安時代後期の人物で時代が異なります。しかし、共に先祖は高望王(将門の祖父・タカモチオウ)で、桓武天皇を祖とする平氏の流れと言われています。』

『資料もきちんとしていて、家に帰りもう一度読ませて頂こうと思っています。史実と伝説とはどの位違っているのでしょうか。伝説が語り継がれていくということは、その地の人達の将門に対する思いが伺えました。また新しい伝説が生まれていくのでしょうか。』

『改めて将門公の人氣を感じる講演会でした。本日は、前二話が地元を離れたお話でしたが、興味深く拝聴しました。当寺でも将門公ゆかりの寺として、パンフレット作りに取り込んでいます。』

『秩父は秩父平氏の出身。将門の乱の舞台ではないが、英雄の出身、伝説の広まり、関東全域に広まり、将門伝

説が続くことを願います。』

『平将門の人物像を高角度から知ることができて、とても興味深く聞くことができました。』

『秩父まで伝説があるとは知らなかった。桔梗の根が葉だったと知り、大変面白い説と感。』

## 【要望】

『鮮魚(なま)街道で運ばれた魚の執着地、日本橋河岸の様子やエピソードなど面白そうな題材が沢山ありそうなので、いつかこのテーマの講演会をお願いします。』

『史実とは別に将門に絞って想像を入れて語って貰うと、もっと楽しい講演になるのではないかと。』

『桔梗と将門の出会いにも触れて欲しい。海音寺潮五郎の「将門記」を愛読する者ですが、そこには筑波山の歌垣(ウタガキ)らしいイベントで初対面であったと思う。』

『歌垣・耀歌(カガキ)とは、古代、求愛のために男女が春秋二季、山や市(いち)などに集まって歌い合ったり、踊ったりした行事(Music)。男女の出会いの場』

『秩父の方の話は理解しづらかったが、桔梗伝説に興味があったので話を聞いてとても良かった。将門の王城については、もう少し深く調査して欲しい。』

『3人の方のお話は、それぞれ興味深く、時間ももっと欲しかったです。秩父のお話については、地図の史料が欲しかったです。伝説が作られ、広まって行く過程の裏付けが丁寧にされていて面白かったです。桔梗伝説については写真が多くて、分かり易かったです。桔梗はあっても花が咲かないの理由の史料も面白かったです。我孫子市内に将門の王城の地であるという説は市民にとっては魅力的な話だっと思いました。』

『将門本人だけでなくその家臣や愛妾にまで伝説が残っていることに歴史の深さを感じました。講演者の方、本日準備された皆様、ありがとうございました。』

## 【運営意見】

『お一人の講演時間が長いと思いました。① 町田氏講演：パンフレットと秩父地方の地図及び写真を添付して欲しかった。② 取手の将門伝説の史料に取手市以外の町の資料が含まれており、理解を深める。③ 戸田氏の講演では、資料型の二氏に比べて少なく、分かりにくかった。』

『テーマの秩父は、難しく話らないお話でした。時間も大変オーバーしたので事務局の人はもっと講師の人に時間を守るようにお願いしたい。司会者がはつきりと終了して下さいといふべきです。』

『質問の時間を設けて欲しい。』

## 【感謝】

『平将門について色々知ることができました。ありがとうございました。』

『次回を楽しみにしています。』

『ありがとうございました。』

『有難うございました。』

(表1)当日参加者のアンケート結果

全体印象				
評価	男	女	性別 NA	計
1とても良かった	13	2	2	17
2良かった	13	3	9	25
3普通	5	2	1	8
4良くなかった	0	0	0	0
5悪かった	0	0	0	0
6その他	0	1	0	1
不明。NA	4	1	1	6
計	35	9	13	57

回答数 60.6%

## まとめ

ご回答の方から講演について、新たな発見がありました。伝説の広さに驚いたなどの熱いご感想を頂きました。史実がはつきりしないだけに、そこにロマンスが生まれ、伝説が広まって行くのを感じ取りました。又、一方、運営については時間超過、質問時間の取りやめなどに真摯なご意見も頂き、今後の運営に検討課題を残しました。

私たちが住む町の歴史や文化を知り、互いに交流し合うことで、より好きになって行く地域社会に繋がることを期待したいと思います。

ご参加ご協力下さった皆様に感謝申し上げます。

## 放談くらぶ 『日本社会は男女平等か?』 に参加して

佐々木 侑

2月11日(土)の建国記念日に、放談くらぶの講演が市民プラザで開催されました。今回の講演会は、近時の社会的な関心事にもなっている日本社会における男女共同参画社会についての講演でありました。講師は松戸市市民大学講座で活躍されている青山学院大学名誉教授の関英昭氏がなされました。

関講師は当会が2ヶ月に1度開催する「放談くらぶ」に特段の親しみを感じているようであり、また当会の活動を大変有意義な市民運動と評価して下さっております。最初に自己紹介としてドイツ留学時代の



は「酔っ払い天国」「カルテル(談合)天国」だそうです。「男性天国」はそのもののズバリの現状の日本社会で、酔っ払い・談合も男同士で杯を重ね男同士で旨味を相談するとの、日本特有の事象なのだそうです。

次には配られた資料とパワーポイントで、日本の実態について世界経済フォーラム(WEF)の報告書より、男性に対する女性の割合であるジェンダー・ギャップ指

数(GGI)を示し、やんわりと時に鋭く指摘します。男女比における政治参画・経済参画ではその値(男性に対する女性の割合)が低いために、総合で日本は146カ国中116位とのことであります(教育と健康の値は世界トップクラス)。講師からは、「世界における日本のこの実体はどうしてですか?」タイは79位、ベトナム83位、インドネシア92位、韓国99位、中国102位よりもなぜ日本は低く116位なのですか?」との投げかけに、元気の良い出席男性陣からは、ため息が漏れたように感じました。

その次には、日本社会によく似た文化・歴史を持つドイツとの比較論を展開しました。ドイツ基本法3条は「何人も法の下で平等である。男性と女性とは同権である」と定めていましたが、その実現は困難であったとのことで、公務員制度改革と女性クオータ法の制定を行いました。2021年にはこの法律を改正し「男女平等」の強化をはかり、世界順位は10位にまでに改善を実現しております。クオータとは「割り当て」のことであり、女性に管理職ポストを一定割り当てる法律をいう。このことは日本でも男女雇用機会均等法、男女共同参画SYAKAI-KIHOON

法を制定しましたが、罰則や強制力は無く、努力義務とされているため進展がほとんどありません。また、育児・介護休業法、女性活躍推進法を改定、候補者男女均等法を制定しましたが進展は見られていないのは数字のしめす通りであります。

ここまでの講演では、日本の実態について参加者の皆さんもそれほどの深刻な問題とは考えていない様子でした。日本の置かれた地球的・世界的な位置づけに「日本はそんな状態で今までやってきて、男も女も文句はないので、良いではないか?」との感じます。

果たして、この世界とのジェンダー・ギャップは放つておいても良いのでしょうか。日本という国の評価は知らず知らずのうちに世界から後方に置いて行かれて、政治、経済、教育、福祉、健康、文化、科学、産業、その他に大きく影響しないのか。国連での非常任理事国任命や、平和活動、外交活動、防衛問題、環境問題で



日本の実態は宜しくないことに気付いて欲しいがための質問と感した次第です。

男社会の質問として、男という漢字は「文字で男偏の漢字はなく、女に比べ軽々しくは無く男は重要である。女のへりくだった言葉はあるが、男のことはには重みがある。日本の高校・大学の入学試験では男が優先的に入学できている(都立高校や医大入学男性優位)。結婚したら男の姓にするのが常識。企業の役員や上級職は男が優秀だから女性になることは少ない。育児休暇は制度として有るが男が取るのは女々しい。等々。

後日になって、日本の男社会が今の世界的な潮流に合わない理由を私なりに考えました。日本は島国で長いこと外国との交流が鎖国で閉ざされていたこと、明治新時代の模倣と言え急激な欧米化と明治憲法の制定、日清日露戦争の勝利と軍部の台頭、家長制に根ざす男社会の構成、世界大戦後の新憲法制定と男子系天皇継承、「女は引込んで、出しゃばるな」と男は威張っていた昭和の社会等々。このような歴史を持つ男社会は根が深く、昭和を生き抜いてきた私のような男は心底から理解するのは大変に難しいと感じるのであります。

関講師から最後に宿題が出されております。「日本

重要な地位を失つてしまわないのかと考えてしまします。

関講師からは日本の実態に関する質問が幾つも用意されており、次々に我々聴衆に投げかけられました。

男性優位の

に市民社会は存在しますか？社会と世間は同じですか？」

最後の「世間」という言葉に、何と表現したら良いのか、日本の恥部である雰囲気強烈に感じ取れ、男社会にどっぷりと長く浸ってきた自身を深く反省している次第であります。 以上

### 放談くらし『日本社会は男女平等か？』

#### の講演を聞いて

日本では憲法を始めとして、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などにより、法律や制度面では男女平等が進んできたが、まだ「女性の役割、男性の役割」は、意識の中に深く根付いている。「男らしさ・女らしさ」「男のくせに・女のくせに(女の分際で)」など明らかに男女を区別(差別)する言葉も存在する。こうした固定的性別役割分業意識は、女性のみならず男性の生き方を狭め、本当に豊かな生活を実現する妨げにもなりかねない。真の男女平等を実現するためには、日ごろの行動や意識は、もちろん、慣習までも変革していかなければならない。

当日の講演で配布された資料の中に「女性議員比率の国際比率」の表がある。調査対象となった世界193か国のうち、日本の国会議員(衆院)に占める女性の割合は、10.0%で165位だ。1位はルワンダ、2位キューバ、3位アラブ首長国連邦・・・となっている。主な先進国では、フランス31位(39.5%)、ドイツ42位(34.9%)、英国44位(34.2%)などとなっており、いずれも日本を大きく上回る。

これは選挙の結果による割合だが、果たして立候補時の女性の割合はどうだったかについて興味を湧いた。どのくらい女性が立候補しているかについての疑問があった。もともと女性の立候補者が少なければ女性を沢山選ぶにも選べないわけである。前回(2021年)の衆議院選挙の立候補者を調べてみた。

調査の結果、前回の衆院選には全体で1051人が立候補しており、このうち女性は186人で、全体の17.70%である。女性候補者の割合が戦後最高となった2017年の前々回選挙と比べても23人少なく、割

合は0.01ポイント下がった。

政府は2020年末に閣議決定した「第5次男女共同参画基本計画」で、衆参両院選挙の女性候補者の比率を2025年までに35%にする目標を掲げているが、実態とは大きな差がある。政党別の女性候補の割合をみると、与党は自民党9.8%(33人)、公明党7.5%(4人)。野党は立憲民主党18.3%(44人)、共産党35.4%(46人)、国民民主党29.6%(8人)などとなっている。立候補時点でこの状況では、女性議員実現の割合が少ないという結果は明らかである。

前回選挙の際、立候補を断念した男女を対象にした内閣府の調査では、政治家として活動する上で課題となるものとして、「女性は家庭生活(家事・育児・介護等)との両立が難しい」「政治は男性が行うもの」という周囲の考えなどの回答が、男性に比べて女性の割合が高かった。

一方、前回立候補した女性候補者の一人は、「幼い2人の子ともがいて、仕事と子育ての両立の難しさを実感してきた」という。以前勤務していた職場では、子どもが体調を崩して仕事を休んだ時、周囲の風当たりが強く、昇進や昇給にも影響があると感じ、「自分の経験を生かして政治に携わり、社会を変えたい」と考え、立候補を決めたという。この候補は「票集めのために女性の数を積み増すだけでは意味がない。志を持って、政策立案ができる女性議員を増やしていくべきだ」と話した。

ところで女性の割合が少ないことについて「選挙で公平に選ばれた結果だ」として政治の場に女性が少ないことを問題視しない考え方や、候補者や議席の一定数を割り当てるクォータ制は「逆差別だ」とする見方は根強い。

こうした意見に対し、お茶の水女子大学ジェンダー研究所の濱田真里さん(東アジアにおける政治とジェンダー)研究チーム共同研究者は「機会の平等があったとしても、選挙の結果がこれまで男女差が出ている。本当にこれは公平な選挙なのかという疑いが出ざるを得ない」と話す。さらに「政治の場を男性ばかりが占めていると、女性に関わる社会問題が課題として認識されにくく、周辺化されてしまいます。子育て支援、少子化、貧困対策、賃金格差といった分野で長い間対応

が遅れをとっているのは、女性たちが置かれた実情を知り、その訴えを政策に反映できる女性議員が政治の場に少ないからこそ」と指摘する。政策を立案する立場の与党(自民、公明)の女性候補者が現在、ともに1割に満たない状況では「男女共同参画基本計画」そのものの実現が難しいと言わざるを得ないのではないか。(T.M)

#### (第1回)

### 『世田谷の頃の原田京平ファミリーを

#### 知る・その1』に住んだのか、どの

#### ような暮らしがあったのか』

平林 清江(会員)

はじめに

少ないけれど、正確で充分だった住所の情報

世田谷区内の「原田京平とそのファミリー」の旧宅跡地探訪・取材」日は、令和元年(二〇一九年)十月二十一日、月曜日と打ち合わせてあった。筆者は、その日の午後、十三時少し前に小田急線千歳船橋駅に着いた。生まれて初めて降りる駅である。

筆者にとり、世田谷区は全く未知の土地なので、調査を一緒に下さるお二人、世田谷文学館友の会事務局企画委員の大江美子氏・幾田充代氏と、無事に合流。お二人ともお住まいは世田谷区内、つまり世田谷区民である。

とは言え、私たちに与えられた情報は、原田京平ファミリーが「世田谷の頃」に住んだ住所は、現在の「世田谷区桜丘四一九辺り、小田急線千歳船橋駅から近いところのようだ」ということだけであった。しかし、これが、「原田京平ファミリーの旧宅跡地」を特定するためには、正確で充分な情報であったということが、後に分かるのである。

では、この情報は、いかにしてもたらされたのか。先ずは、ここで、これまでの経緯を記しておかなければならない。

## 一・住所の情報がもたらされた経緯

### (1) 世田谷文学館友の会から執筆の ご依頼をいただく

二〇一九年の夏、世田谷文学館友の会事務局から、次回発行される同会の会報(五十六号・十二月中旬発行)の《世田谷区民ではないけれど……》という欄に、何か書いて寄稿するようにとのご依頼をいただいた。

世田谷区とは、常日頃は、全く無縁の千葉県の我孫子市民である筆者は、しばし、とまどったが、またと無い機会でもあるので、しばし考えて、画家・歌人の原田京平と、そのファミリーが、「世田谷の頃、どこに住んだのか、どのような暮らしがあったのか(注1)が、未だ解明されていない」ことに思い当たり、一文をものして、世田谷区民の皆さまにご教示願うことにした。その趣旨は、次のような内容である。

### (2) 画家・歌人原田京平とそのファミリーの 「世田谷の頃」の住所が知りたい

大正期から昭和初期にかけて千葉県我孫子町に住み、後に世田谷に移住した画家で歌人の原田京平(明治二十八年十月〜昭和十一年一月)は、日本美術院洋画部出身、春陽会会友の画家である。雑誌『白樺』の影響を強く受けた画家で、大正期白樺同人の柳宗悦・志賀直哉・武者小路実篤らが居住した我孫子町に転居し、彼らと親密な交際を果たした。

特に小説家の志賀とは家族ぐるみの深い交際をし、志賀が京都に転居後は、その留守邸に住まいながら、我孫子の自然を題材に多くの油彩画を描いた。また、窪田空穂を師とした歌人でもあった京平は、空穂系短歌雑誌(注2)の同人らとの交友も盛んに行い、我孫子にて充実の六年半(大正十年十月〜昭和三年一月)を送った。このように、京平の我孫子における生活や交友および芸術活動については、かなり解明されており、現在「我孫子・白樺派を継ぐ者」(注3)として認知され、その評価も定まりつつあるが、「世田谷の頃」のそれについては、資料も乏しく未だ明確ではない。

原田京平は、昭和三年三月、我孫子を離れ上京、家

族を伴い世田谷若林(番地は不明)へ転居、さらに同五年三月には世田谷五丁目(画室(聚文画室)を建てて移り、ここが終焉の地となった。

京平は昭和十一年一月、病故に満四〇歳で早世したが、妻によつて遺歌集『雲の流れ』が刊行され、筆名は原田和周、序文は窪田空穂による。「世田谷の青い空に白い雲の流れる」のを見ては、旅への思いを募らせていた京平を偲び、妻はこの遺歌集を『雲の流れ』とつけたのである。

「世田谷の頃」、京平は何を思い画布に向かったのだろうか。また、どのような暮らしがなかったのだろうか。いつの日か、画室のあった場所を訪ね、「世田谷の頃」の京平とその家族を知るための第一歩としたいと考えている。手がかりは、昭和十一年五月に刊行された、「雲の流れ」奥付にある住所表記「東京市世田谷世田ヶ谷五ノ一八四九」(注4)とのみで、心細いばかりだが、世田谷区民の皆様の「教示を切に願っている。

《世田谷区民ではないけれど……》「世田谷文学館友の会会報五十六号」掲載から)

### (3) 早々と有力情報がもたらされる

未だ公表前に、この一文に目を止めた幾田氏(前述)が、世田谷区民の作家「きむら けん」氏にお尋ねくださり、きむら氏は、さらにその方面に精通されている。「木村孝」氏に問い合わせて、昭和十一年の住所表記「東京市世田ヶ谷世田ヶ谷五ノ一八四九」は、現在の「世田谷区桜丘四一九辺り、小田急線千歳船橋駅から近いところ」という有力情報をもたらしてくださったのである。(令和元年(二〇一九年)九月、二十四日)

何ともスピードな連携ぶり、筆者の方が驚くばかりであったが、しかし、この迅速さが筆者の背中を押したことは確か、この事案(どこに住んだのか?)のスピード解決に結びついたのである。

## 二・十月二十一日、加藤充子氏に出会うまで の道筋

さて、ここからは、十月二十一日(注5)の「原田京平

ファミリー旧宅跡地探訪・取材」の一日(正確には半日)の実際の道筋である。千歳船橋駅を降りて、わずか一時間たらずで目的の場所に到達し、現在その場所にお住まいの加藤充子(かとう みちこ)氏にお会いできたのである。

その日は曇天で、少々肌寒い日であった。十一時十六分、我孫子発常磐線緩行(営団地下鉄千代田線經由小田急線乗り入れ)向(が丘遊園地行き)に乗車。十二時四十分千歳船橋駅着。

早速、取材をこ一緒に頂く大江美子氏、幾田充代氏と合流。

### (1) 桜丘交番から得られた情報

「桜丘四丁目は高台」、「千歳通りは、昭和初期までは品川用水という川」

改札を背に、俳優森繁久弥のブロンズ頭像に向かつて、左手に出、大通り(城山通り)の信号を渡る。商店街を抜け、千歳通りへ出る。千歳通りを桜丘方面へ途中、通り右手にある桜丘交番(世田谷区桜丘五丁目十七)で道を尋ね、許可を得て地図を撮影。(写真1)桜丘四丁目は高台(武蔵野台地)で、とても広くマンションの多いところであること。また、千歳通りは、昭和初期までは「品川用水」(注6)という川であったこと。途中、八十歳以上と思われる方に出逢ったら、子供の頃泳いだことがあるか、尋ねてみるとよいとの情報をいただく。

### (2) 岡庭氏から得られた情報

「品川用水」と「加藤家のマンション」千歳通りを右手にそれ、高台の方へ。右手にお地藏さま(子育て地藏尊)を見て、坂を上ると、程なく「水流通さん」(世田谷区桜丘四丁目九)という冠木門のお宅がある。そのお宅の手前の道を左折して少し進むと、左手に「岡庭・おかにわさん」という立派な農家がある。(写真1の①)。ここで、偶然このお宅の方(男性・岡庭英雄氏)に出逢う。そこで、この地を訪れた目的を説明すると、「原田という画家の話は聞いたことがある。少し先の、マンションのオーナーの加藤さんを訪ねるよう

に」との有力情報を得る。ここで、先程桜丘交番で得た情報、「品川用水」について尋ねると、「昭和十一年生まれで、八十三歳だが、子供の頃に既に川ではなく、ところどころに水たまりがあるような状態であったので、泳いだ経験はないが、ザリガニ捕りはした。親父は泳いだと思う」とのことであった。



### (3) 「Kフラット」のオーナー加藤充子氏との出会い

その後、マンションの名前が明確ではなかったので、近所の加藤さんのうちの一軒を訪ねると、そのマンションは「Kフラット」写真1の②であり、そのオーナーが加藤さんであると教えて頂いた。二軒目の加藤さんは、「原田」という画家のことは聞いている」とのことであった。

早速、「Kフラット」を訪ね、勇気を振り絞ってインターホンを押した。訪問の目的を告げると、直ぐ外に出てきてくださったのは、オーナーの加藤充子氏(かとう みちこ・加藤家のお嫁さん)である。(写真2)



が、「ご先代やご主人からのお話を聞き伝えていらつしやっております、貴重なお話をお聞かせくださったのである。次に、断片的ではあるが、この日、加藤充子氏から教えていただいた原田京平ファミリーの事柄を記しておく。

#### 【注釈】

(注1)「世田谷の頃どこに住んだのか、どのような暮ら

しがあつたのか」

遺歌集「雲の流れ」収載、(昭和十一年病重りて最後の歌十一首)の中の、一首、(母のるす父をみとりて主婦ぶりのひたすらなるを抱きてかなしき)は、思えば、京平終焉の家となった、この場所で詠まれたと考えられ、久しい間気になっていた。ならば、是非とも「原田京平ファミリー旧宅跡地」を探し訪ねたいと願っていた。

遺歌集「雲の流れ」(編輯人原田睦子 昭和十一年五月二十五日発行)

装幀は友人の画家碓伊之助(はざま いのすけ)、掲載された短歌三五二首、長歌三首、これらはすべて師の窪田空穂が目を通し、添削がなされ、序文が添えられた。

その序文の中から、(最後の歌十一首)の解説の部分を引用する。

京平最晩年の病床での暮らしぶりと、その心境が理解できるくだりである。

序・原田君が物故しての後、睦子さんは夫君の病中の歌を私に示された。それは視力が弱つて、物の形が臆になつてしまつた頃のもので、細かい文字は認められない所から、粗末なノートに鉛筆で大きく書いたもので、すべて十一首あつた。 中略

その歌は、原田君の心の境涯のいかに高いものであつたかを、さながらに現はしてゐるものである。床上の原田君は恐らく死を意識してゐたであらうが、その歌は日常の平静を持続してゐて、その為の聊の感傷もなく、又聊の心の乱れも見

せてはゐない。

そこにある歌は、周囲の者の聊の行動を、愛の心をもつて捉へ、それに対して朗らかな微笑を送つたものゝみである。しかも其の歌の背後には、澄んだ心と、自由な心と、楽しんで詠んでゐる心とが明らかに漂つてゐるのであつた。

〈昭和十一年 病重りて 最後の歌十一首〉

よみかへすすべなき文字をかくわざの

あらずば吾は何をなすべき

庭の梅つばみ大きくなりしよと

聞けど光のたゞにまぶしき

うれはし氣により臥しものを問へる子に

笑はず言葉云ひてはやりつ

日々にならす戸の骨へなへなと

曲りはげしくなりては見ゆる

もののけはじめあやしくなりし父われに

見よとて出せりそのかける繪を

母のるす父をみとりて主婦ぶりの

ひたすらなるを抱きてかなしき

にしめ芋ころがりおつればこの娘

あわてひろふなり手づかみらしも

口にくくみはじめたものゝわかるなり

俄めくらはかくて味はふ

なにやらんくるき煮ものを渡されぬ

箸とりくへばわらびなりけり

故里の雑煮はかくと云ひければ

つくりしぞうにの芋のうまきかも

視力のみわり日毎に加はれど

念なき妻の見えてうれしき

(注2)空穂系短歌雑誌「原田京平がかかわつた雑誌は『槻の木』『地上』『白樺(しらがし)』などである。『槻

の木は「大正十五年二月に、早稲田大学国文科の学生たちの間で、空穂を中心に創刊された。京平は『槻の木』同人ではないが、画家として同誌の表紙画などを描くことでもかかわっていたようである。」

『地上』は大正九年三月、『国民文学』（空穂が大正三年六月に、創刊した短歌雑誌）から分かれ、空穂の弟子対馬完治が創刊。『白樺』は、関東大震災の後の大正十四年七月、やはり、空穂の弟子の宇都野研が、『地上』と共に創刊。京平は、以上の二つの歌誌には、同人として参加。空穂は、これらの歌誌にかかわり、添削も行ったという。なお、昭和四年一月、この『白樺』は解散され、『勁草』と『地上』（第二次）とに分かれるが、京平は『地上』（第二次）に参加し、生涯歌作を続けた。

〔注3〕「我孫子・白樺派を継ぐ者」：図録「我孫子・白樺派を継ぐ者―原田京平の生涯―」（我孫子市白樺文学館編 我孫子市教育委員会文化・スポーツ課 平成二十八年三月三十一日発行）から引用。

〔注4〕東京市世田ヶ谷世田ヶ谷五ノ二八四九この住所表示は、昭和十一年五月刊行の、原田和周（京平）の遺歌集『雲の流れ』の奥付に記されていたまゝを引用したものである。ただし、昭和七年に改正された正しい表示ではないとのアドバイスを得たので、あらためて加藤充子氏にお願いし、お調べ頂き次のような御回答を頂いた。

世田ヶ谷区役所の住居表示担当の大田さんによれば（電話による問合せ）「昭和七年十月一日から東京府東京市世田ヶ谷区世田ヶ谷五丁目二八四九番地となった」そうです。昭和十八年七月一日以降「府」が「都」となり、東京都世田ヶ谷区と、現在につながる呼称に変わった。昭和七年以前は世田ヶ谷町大字（おおあぎ）などと云っていたらしい。農村地域ですから。

〔注5〕十月二十一日：取材を行った令和元年（二〇一九年）十月二十一日は、日本各地に甚大な被害をもたらした、未曾有の台風十九号（十月十二・十三日）か

ら間もない日であった。また、翌日の二十二日は、「令和天皇・皇后即位礼正殿の儀」の日であった。

〔注6〕「品川用水」：現在の東京都品川区にかけての地域（かつて農業用水（灌漑用水）を供給していた用水路。玉川上水に333あった分水のうち最長級であり、『上水記』によればその流長は7里半であったとされる。明治末期から大正時代にかけて、区域の市街化にともない工業用水路および排水路へと役割を変え、一九三二（昭和七年）品川用水普通水利組合が解散、品川用水は三鷹町に移管され、灌漑用水としての役割を終えた。以後は部分的に暗渠化され排水路等として利用。昭和二十年代後半（二十七年から二十九年頃）に埋め立てられて消滅した。

〔Web〕から（幾田氏検索）

次は、昭和二十三年から二十四年、桜丘中学一・三年生だった方の「桜丘の品川用水の思い出」から。

昭和十年生まれの桜丘中学の1期生の方の原稿、「千歳通りにはかつて川（品川用水）が流れていました―品川用水の思い出―」（桜丘の歴史と風物シリーズ第4回）の記述内容の年代は、昭和二十三年・二十四年頃、アメリカザリガニ捕りも昭和二十三年・二十四年頃。埋め立ては昭和二十七年から二十九年にかけて行われていたよう。

「子どもの頃は変な川だと思っていた。川であれば水が流れていると思う。ところがこの川は水が流れていないのである。何と水溜りばかりである。池のように点々としているのだ。川の両岸は堤防のようになっており、川に入るためには、そこを上がって再び降り川底に至るのである。岸边には所々に喬木が生い、堤防には笹が生い茂っていた。いや川底にも生い茂っていた。お陰で容易に向こう岸に渡れることが出来た。川底には木の枝が折り重なっていた。灌漑用水とは到底言えぬ有様であった。」

「品川用水はアメリカザリガニの宝庫で、幾らでもとれた。それからしばらくしてそこにはゴミが捨てられるようになった。」

うになった。

東京都が家庭ごみの捨て場としたのである。」  
「その後さらに時間が過ぎてそこは立派な道路になっていた。それが現在の千歳通りである。」

以上は、かなり詳しく「品川用水」の変容が理解できる内容ではあるが、原田京平が、桜丘に住んだ昭和五年三月〜昭和十一年一月の間の、「品川用水」の様子は、この記述からは判断出来ない。

（次号に続く）

あびこだより105号

## 「白樺と民藝、行商の時代を経て 男女の平等へ」

海津 いいな（会員）

### ①昭和…鉄道と行商女性

我孫子は江戸の宿場町として発展。明治に常磐線が通り、成田線も接続して、製糸工場の集積地になり、県内でも近代化の波にいち早く乗ることになる。地方からも女工さんが集められて華やいた雰囲気。賃金を得る女性たちが出現した。駅は人とモノを運び、資本や知識も導入された。籠を背負って行商の女性たちが稼ぎに出ていきくと、男以上に現金収入を得る変化も生まれた。客の家族を思い、その要望を聞き取りながら商売上手に、逞しく生きて行商女性からの一例を聞き取りから紹介する。

昭和も後半に入ると、成田に激しい反対闘争があった。1971（昭和46）年2月、土地収用強制代執行がされ、数か月に及ぶ三里塚闘争を経て、新東京国際空港という名称で1978年に開港した。三里塚の地元では少年行動隊も加わっていて、空港公団分室に押し掛けて抗議した。いつの頃までだったか、車で空港へ乗りつけるとトランクを開けてチェックされたのを感じた。おおいだろうか。もともとは御料牧場の地として、のどかな桜の名所であって闘争とは無縁の農村だったが、国鉄など労働運動の過激な影響があったことも事

態を長期化させた。それも、民営化の2004年、名称も新たに成田国際空港となった。チーバくんを形作る房総半島の空の玄関口：NRT。三里塚御料牧場は現在、記念館を見学できるのみ。他に鴨場デートで知られた市川の「新浜鴨場」は約12,000㎡の元溜（もとだまり）と呼ばれる池に、毎年1万羽を超える野鴨などが越冬のため飛来する。

②大正…民藝の妻

一方、「上野発の夜行列車」が青森に繋がっているのは今も同じ。東日本大震災で不通になっていた駅も再開した。そして、歌は世に連れ、世は歌につれ、いつの世も時代を超えて残るのが本物の芸術と言われ

る。白樺文学館では、国際的な歌手でもあった柳兼子の音源を視聴できる音楽室や彼女が音楽指導に用いたピアノが置かれて、当時を偲ぶことが出来る。声楽家としての道を閉ざすことなく続けよとの夫は一見理解ある風だったが、明治生まれの夫・宗悦は口ほどに家事育児を分担する訳ではなかった。兼子が一家の家計、民藝活動を一手に支え続けつつ、自らの芸を貫いた、白樺唯一の女性芸術家であった。ロマンスあり、震災、戦争、世界で活躍し、明治、大正、昭和に多くの足跡を残した、NHK朝ドラのヒロインに取り上げられたいと期待！

③それ以前…山の神

世界を見回すと、ヨーロッパの王室が、王位継承を性別によらず長子継承に改めるようになって、次期女王が誕生する王室が増える予想である。日本には「山の神」と言う事があった。かつて、お宅の奥にいたので「奥さん」と言われたものの、現状ではどうか。山の神との呼び方も通用するかどうか、参加の皆様と時代の変化を話してみたいと思う。

「放談くらぶ」で海津にいな氏の講演を開催予定

日時 4月15日(土) 14時〜16時

会場 アビシヨックピングプラザ(旧エス・シ)3階会議室1

(詳細については12ページ参照ください)

(プロジェクト報告)  
百人一首を楽しむ会(番外)

美崎 大洋

今月の歌(恋の歌その21)

いまはただ思ひ絶えなむとばかりを  
人づてならで言ふよしもがな

(63)

【現代語訳】

今となっては、あなたへの想いをあきらめてしまおう、ということだけを、人づてにはなく(あなたに直接逢つて)言う方法があつてほしいものだ。

【語句】

「ばかり」は限定の意味の副助詞。【人づてならで】「直接に」「人を間に立てずに」という意味。「で」は打消の接続助詞。【言ふよしもがな】「よし」は「方法」や「手段」のことで、「もがな」は願望を表す終助詞。

【作者】

左京大夫道雅(さきょうのだいふちまさ)。993〜1054 藤原道雅(ふじわらのみちまさ)。関白藤原道隆(みちたか)の孫で内大臣・藤原伊周(これちか)の息子。幼い頃に父親が失脚、さらに24〜25歳の頃にこの歌に描かれた恋愛事件によって三条院の怒りを買ひ、生涯不遇だった。従三位左京大夫となったが、『小右記』によれば、法師隆範を使つて花山院女王を殺させた。敦明親王の雑色長(註)・小野為明を凌辱(暴行)したり、博打の場で乱暴を働いたりと乱行の噂が絶えなかつたようで「悪三位(わるさんみ)」の呼称がある。(註)・雑色(ぞうしき)とは①令制において、品部(とも)・雑戸(ざつこ)と併称される官制の下部組織。中央官司で手工業に従事したり、郷土での生産にたずさわつた。②院、御所、官衙、公家などに奉仕して雑役に従つた。

悲しい別れを迎えなければならなかつた男が、なんとか恋人にもう一度逢えれば、と切実に願う話である。

この歌は実話で、この歌の作者・藤原道雅と三条院の皇女・当子(とうし)内親王との秘密の恋のエピソードが残されている。

時の三条院の皇女・当子は伊勢神宮の斎宮の任を終えて、都に戻つた。その当子の元へ藤原道雅がひそかに通うようになる。当子は15歳、道雅は24歳くらいだった。やがてその噂は父・三条院の耳に届き、院は激怒。当子に見張りの女房を付けて、道雅と逢わせないようにした。恋愛を禁じられ悲しんだ道雅が詠んだ歌がこれである。伊勢神宮の斎宮は、神に仕える巫女なので恋愛はかたく禁じられていたが、当子はすでに任を解かれて自由の身だった。しかし三条院は許さなかつた。こうして恋を禁じられてふたりは別れ、当子は出家して若くして病死する。また、道雅は元々父が失脚した身で、さらにこの事件で不遇となる。後に人を殺せたり乱暴したりで「悪三位」と呼ばれた道雅だが、その荒れぶりは、不遇の人生のためかもしれない。

関連狂歌

今はただ金は絶えけりはかなさよ

ことづけならであるよしもがな

遊廓で金を使い果たした客

今はただ重湯もたぬばかりを

お目にかかりて言ふよしもがな

今はただ心もほれつ身もなつ

中風に似るたり恋の病は

今はただ恋しゆかしやなつかしの

死の字ばかりを待つ身なりけり

関連川柳

歌かるた人伝てならで下女取れず

(参考文献)

淡光ムック 百人一首入門 有吉保・神作光一 監修  
(淡光社)  
インターネット百人一首各種投稿文

三十九回短歌の会(最終採択の一首) 一月三十一日実施

空と沼出塗う広場に風揚がる  
子等の腕に力漲る

村上 智雅子

老いるとは残念を重ねていくことか

銀杏は清しくどっと散りおり

納見 美恵子

指の猪口反すしぐさに友の来て

くるま座ごろ寝つきぬ語らい

佐々木 侑

今あるを喜び合ひて膳囲む

七草粥のみどり鮮やか

飯高 美和子

誕生日孫も集いてイタリアン

遅しき子等に馳走になりぬ

芦崎 敬己

こまごまと君の小言は聞き飽きた

生死に関わることのみ聞くよ

美崎 大洋

流れゆく雲に問ひたし現代に

生きるなべての不条理のこと

伊奈野 道子

緋毛氈山茶花散つてはなびらうみの

主と向き合う夢幻泡影

松浦 彩

道越えてなじみし寺山どこまでも

木立竹林交じえて広がる

大島 光子

(今回から松浦彩さんがメンバーに加わりました)

文学掲示板

令和五年五月展示作品(文学の広場)

思ひとは逆の言葉口にして

人を傷つけ我も傷つく

八千代市 藤川 綾乃

じんじんと足先冷ゆる真夜に思ふ

もうすぐ母の命日が来る

柏市 納見 美恵子

冬の日にめじろ囀る宮の森

木々を揺らして会話している

我孫子市 飯高 美和子

新しき手帳に今年書かるるは

嬉しきことをと語りぬ友は

我孫子市 美崎 大洋

すこしずつこころを清め物を棄て

身軽に老いて寒月仰ぐ

我孫子市 山崎 日出男

食ふ物の日々満ち足りて家ごとに

車持てるは幸せなるか

我孫子市 三谷 和夫

手賀沼を右に見て手賀沼遊歩道(スタート時点の標識あり)を歩くと間もなく「文学の広場」というスポットがあり、そこに「文学掲示板」が建てられている。年3回(5、9月)当会の短歌が掲示される。

□「放談くらぶ」

日時 4月15日(土) 14時~16時

会場 アビコショップングプラザ(旧エス。3階会議室)

講師 海津いな氏(当会会員)

演題 「白樺と民藝、行商の時代を経て男女の平等へ」

参加費、会員無料、非会員三〇〇円

申し込みは<http://www.abiko-club.com> 佐々木まで

(10ページ「あびこ」より「参照ください」)

□プロジェクト「短歌の会」

第四十回短歌の会

日時 3月21日(火・祭) 13時30分

場所 けやきプラザ10階小会議室

◎短歌に興味のある方、見学&体験ができます。

我孫子市の新型コロナウイルスワクチン接種状況

接種状況(令和5年3月7日時点暫定値)

オミクロン対応ワクチン(初回接種修了者)

年齢	接種対象者	接種者数	接種率%
12歳以上	109,063	62,962	57.73

5回目

年齢	接種対象者	接種者数	接種率
60歳以上	49,499	31,806	64.26

4回目

年齢	接種対象者	接種者数	接種率
全年齢(12歳以上)	121,665	65,433	53.79

編集後記

「男女平等」と言うは易しだが...「バイビーX実験」と呼ぶ興味深い実験がある。「生まれて間もない赤ちゃんと対し、人々がどんな行動を取るか?」という実験である。内容は「生後3か月の赤ちゃん」の世話を頼まれたとして、目の前に、ロボットの人形と女の子の人形があつたら、どちらを赤ちゃんと与えるかというもの。この実験では、最初に多くの人が「この子は男か、女か?」と尋ねた。「男である」と教えられた人は、ロボットの人形やボールなど男の子らしい玩具を持っていき、逆に「女である」と教えられた人は、「女の子らしい玩具」を与えた。その選択は、赤ちゃんの意思とは関係なく、世話をする大人が赤ちゃんに押し付けているのである。つまり大人が属している社会の「ジェンダー」による判断である。この実験によつて分かるのは、「人は生まれた時からジェンダーを押し付けられて成長する」ということである。(美崎)